

とらのもん

ペインクリニックってなんですか？

連携医療機関のご紹介

～三軒茶屋はやかわクリニック～

検査を知ろう～血管機能：ABI・PWV～



梅

基本理念：医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし
その時代時代になしうる最良の医療を提供すること

公開講座のお知らせ

本院『ペインクリニックってなんですか？』

～魔法のはりではないけれど、悪い痛みはとってしましましょう～

虎の門病院麻酔科

岡田 まゆみ 医員

日時：2月17日（土）14：00-15：30

場所：本院 本館3階 講堂

（入場料無料）

諸般の事情により、変更・延期・中止になる場合がございます。

お電話・ホームページ等で開催の有無をご確認下さい。



ペインクリニックってなんですか？

- 魔法のはりではないけれど、悪い痛みはとってしましましょう -

虎の門病院麻酔科

岡田 まゆみ

みなさんはペインクリニックという診療があるのをご存じでしょうか。日本ではまだ歴史が浅く45才くらいの若い診療科目なので、厚生労働省の認める「科」にはなっていませんが、最近の目を見るようになってまいりました。わが虎の門病院においては本格的にスタートしたのは1993年からでした。

ではペインクリニックとはなんでしょう。「ペイン=痛み」「クリニック=診療所」です。痛みの治療をするところなのです。

痛みがあると仕事にも趣味にも集中できません。痛みが続くと、イライラしたり、食欲が落ちたり、夜眠れなかったりします。ときには気分が悪くなったり、冷や汗をかいたりします。痛みを感じる場所は脳の一部で、そこは感情をつかさどる脳辺縁系というところと密接に情報交換しています。そのために痛みには嫌な感じがつきまとうのです。

痛みはからだのどこかに異常が起きていることを知らせる警報の痛みと、いたずらに体をいじめるお仕置きの痛みがあるのです。それらを鑑別して取ってしまった方がいいものはとってしまうのがペインクリニックなのです。

「痛みの治療なんて、昔から内科でも外科でも整形外科でもやっているじゃあないか」と思われる方も多いと思いますが、他の科とちょっと違うところがあります。今回は、そのちょっと違うところについてお話させていただきます。

私たちペインクリニックは、体中の痛みに対して、のみぐすりや、貼り薬を用いる薬物療法の他に痛んでいる神経に直接的に作用する神経ブロックという

岡田 まゆみ S58年卒

< 専門領域 >
麻酔、ペインクリニック

< 所属学会等 >
日本麻酔学会認定指導医、
日本ペインクリニック学会認定専門医、
日本疼痛学会理事、国際疼痛学会、
日本生理学会、日本リハビリテーション学会、
日本臨床麻酔学会、ヨーロッパ局所麻酔学会など



注射を武器にして戦います。

最近では地球温暖化現象をはじめ我々を取り巻く環境が次第に悪化しています。そのためか以前はあまり知られていなかった帯状疱疹という皮膚にぶつぶつができる病気が増えています。この帯状疱疹はヒトヘルペスウイルスに属する水痘帯状疱疹ウイルスの感染によって起こります。このウイルスに初めて感染するといわゆる水ぼうそうが起こります。水痘瘡が治っても、ウイルスはからだの中の脊髄神経にひっそり息を潜めながら暮らしています。40年くらい経って、からだに異常に疲労したり、手術を受けたり免疫の力が減退したときにウイルスは再び活動を始めます。これが帯状疱疹です。多くの場合は風邪の様な前駆症状がでます。次からだの片側の皮膚分節（人間の皮膚の感覚は、顔面は三叉神経、首から下は31対の脊髄神経によって帯状の地図の様に支配されています）に沿って、いわゆる神経痛の様な痛み、感覚の低下、かゆみなどが数日続き、赤い皮疹ができ、水疱となります。このとき半数以上の患者さんではけっこうつらい痛みを

伴います。水疱自体は発症後約2週間でかさぶたになり、約3週間で治ります。しかし約10%では帯状疱疹後神経痛という、えもいわれぬいやな痛みが残ってしまいます。発症したら早いうちに皮膚科へ行って抗ウイルス薬を投与してもらうことがもっとも大切な治療ですが、同時に皮疹がでている部位に即した神経に局所麻酔薬を注射する神経ブロックをおこなうと、皮膚の乾きも早くなり、痛みも軽減できます。我々の経験では、早期からの神経ブロックを行うと帯状疱疹後神経痛にもなりにくくなることがわかっています。当院では皮膚科の理解と協力があるので、帯状疱疹の患者さんがペインクリニックを積極的に受診されています。

このほかにもペインクリニックでは次の様な痛みを治療しています。脳神経外科や神経内科と協力して頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺。整形外科と協力して椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、外傷後複雑性疼痛症候群。また、がんの痛みなどにも有効な神経ブロックを選択して行います。

神経ブロックには病気の種類によって、また病気にかかっている期間の長さによって様々な方法があります。代表的なものについて少し説明します。

<星状神経節ブロック>

首にある左右の交感神経節のいずれかに局所麻酔薬を注射して、頭・顔面・首・肩・腕などの血流を改善して、痛みを取り除きます。

<硬膜外ブロック>

脳から続いている脊髄神経は、膜に覆われて背骨の中を通っています。この脊髄の膜の外側で硬膜外腔というところに針をさして局所麻酔薬を注入することで血

行改善と痛みのコントロールを行います。

神経ブロックで用いられる薬はおもに局所麻酔薬といって歯医者さんで歯を抜くときに歯肉にする注射薬の仲間です。がんの痛みをとるときには神経破壊薬というお薬も使います。病気の種類によって持続時間の長いもの短いものを使い分けます。

ペインクリニックの注射は魔法のハリではないので何でもできるわけではありませんが、痛みを一時的にでも抑えることで痛みによってもたらされる悪いことを抑えることができ、生活の質を改善します。痛みのご相談受け付けます。



< ご挨拶 >

当院は三軒茶屋・茶沢通り商店街の中ほどにあり、都内では珍しく、外科・内科クリニックを夫婦で運営しております。各々が専門家（夫：外科・大腸肛門、妻：内科・内分泌代謝）として15年ほど、虎の門病院を始め総合病院での入院および外来患者様の治療に携わって参りました。この様な2人が日頃考えていたのが「高度で安心できる専門性の高い医療・検査を、より身近な施設で提供したい」という事でした。病気に対して医師は患者様の水先案内人であります。それ以上に皆様が毎日を健康で過ごすための生活相談も気楽にできるような「癒しのパートナー」でありたいと考えております。さらに、内科・外科の全く違う専門家が連携をとり、より全身的なケアを提供できますのでお気軽に御相談下さい。



< 当院のコンセプト >

1. 専門病院と変わらぬ質の高い医療を身近なクリニックで提供することに努めています。
2. わかりやすく、心と体に温かい医療を心がけています。
3. 虎の門病院をはじめ近隣の大病院との連携が速やかです。（入院希望も相談できます）
4. 単に病気の際の対応だけでなく、日ごろの健康管理の医学的サポートに取り組んでいます。

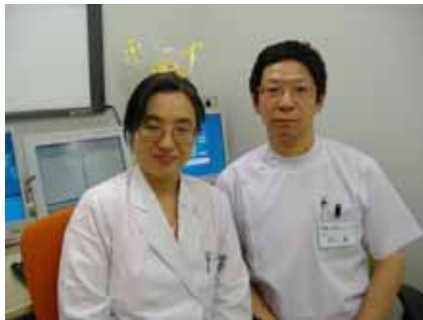
< 院内検査設備 >

患者様の利便性を考え設備を充実させております。院内の血液生化学尿検査やHbA1cなどは1時間前後で患者様にご報告可能です。他、腹部超音波、レントゲン、心電図、脈波速度検査（血管年齢、硬さを測定）血液流速速度計（血液さらさら測定）胃・大腸内視鏡も行っています。

< 診療科のご案内 >

院長 **早川 明子**

診療科目 一般内科、生活習慣病（糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、メタボリックシンドローム、動脈硬化などを中心）ことに糖尿病に関しては、食事運動指導から、インスリン治療を勧められている方の新規の外来導入・継続指導まで可能です。



保険診療での禁煙外来も実施しております。

学会・資格

医学博士、日本内科学会専門医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本老年病学会専門医・指導医、日本動脈硬化学会会員、日本医師会認定産業医

早川 健

診療科目 一般外科、消化器・肛門科、内視鏡（胃・大腸）

火傷や外傷など軽度の外科的処置や、肛門疾患の日帰り小手術から悪性疾患のセカンドオピニオンまで相談可能です。連携医療施設での入院、手術も行います。上部は苦痛の少ない経鼻内視鏡を完備しています。

学会・資格 日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、日本大腸肛門病学会専門医、日本臨床外科学会会員、日本癌治療学会会員、日本内視鏡外科学会会員、日本消化器内視鏡学会会員、身体障害者福祉法指定医（直腸ぼうこう機能障害）

< 診療日・時間 >

月、水、金

午前：9：00～13：00

午後：14：00～17：00（内科）

14：00～18：00（外科）

木

午前：9：00～13：00

午後：14：00～17：00

木曜日は外科が休診になることがあります。

（担当医が連携施設で診療のため）

休院日；火、日、祝日



三軒茶屋はやかわクリニック

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-13

TEL：03-6303-7383

ホームページ http://www.sancha-hayakawa-cl.com/

検査を知ろう

～血管機能：ABI・PWV～

【ABI・PWV検査とは何でしょうか？】

ABIとPWVの2項目を同時に測定する検査です。

ABI (ankle - brachial pressure index : 足関節上腕血圧比) 検査は、足首と上腕の血圧比(足関節部血圧÷上腕部血圧)を求める検査です。生理学的には腕より足首の血圧の方が高く、左右ではほとんど差がないのが普通です。ところが、総腸骨動脈や大腿動脈、膝窩動脈など足首へと続く太い動脈の一部が詰ったり狭くなったりすると足首の血圧は低くなり、従ってABI値は低下します。ABI検査はこのように四肢の血圧を測定することによって動脈内腔の様子を探る検査です。時々刻々変化する血圧を評価するため四肢同時に血圧を測ります。

PWV (pulse wave velocity : 脈波伝播速度) 検査は、心臓から押し出された血液によって生じた拍動を脈波と呼びますが、この脈波が血管を伝わる速さ脈波伝播速度を調べる検査です。脈波の伝わる速度は音と共通した性質があります。例えば、遠くの花火は光ってから音が聞こえるまでに少し時間がかかります。しかし海中で石を叩くとかなり離れていても耳元で叩いたように聞こえます。それは海水の方が空気より硬い媒質だから音が速く伝わっているからです。海水より硬い金属中では音はさらに速く伝わります。脈波の伝わる速さもこれと同じで媒質である動脈が硬いと速く伝わりPWV値は大きくなります。動脈の硬さは動脈壁の硬さとその内圧つまり血圧にも影響されるので、血圧因子を考慮しながらPWVで動脈硬化の程度を評価します。またPWVは年齢とともに上昇するので、基準になる年齢相当グラフと比較して評価します。

【検査方法は？】

腕は肩から、足は膝下から露出させていただきます。ベッドに休んで、血圧測定と同じように安静にさせていただきます。

ABI・PWV測定用カフを両方の足首と上腕に巻きつけます。

心電図用電極を両手首、心音マイクを胸につけます。この検査に付随して必要なものです。

自動血圧測定と同じ要領で加圧し徐々に減圧します。この時加圧される強さは足の方が若干強くなります。

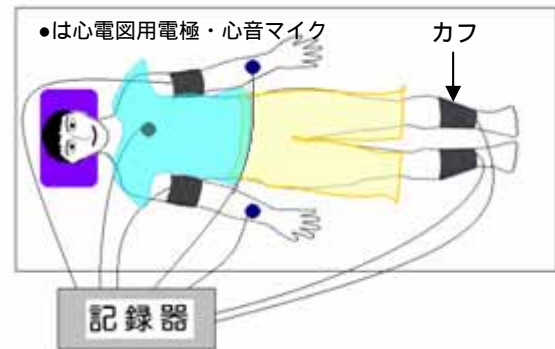
1回の測定時間は3分程度で終了しますが、それを2から3回繰り返すこともあります。

【痛みを伴う検査でしょうか？】

通常痛みはありません。ただし非常に血圧の高い方は加圧された時少し圧迫が強く感じる場合があります。特に足は血圧値が腕より高いためそれが強く感じられます。また、加圧時に腕や足に力が入ってしまうと、測定器は血圧が高いと誤認して強く加圧する場合があります。

怖くない!!!リラックス!! がポイントです。

【検査を受けるにあたって注意すべき事はありますか？】



- 通常の高血圧測定時と同じく十分な安静状態が必要です。気持ちを穏やかにして検査に臨んで下さい。
- 冬場などズボン下着用で来院される場合、足首にゆとりのあるものをお召し下さい。また上は半袖シャツでいらして下さい。
- **透析用シャントのある方は予め係にお伝え下さい。** シャント保護のため、上腕は片側のみ測定いたします。
- **手足などに痛みや傷がある場合は、予め係にお伝え下さい。**

梶が谷キャンパスからの便り

～2月は如月～

副院長 中西 成元

2月は如月。二月を如となす。寒さがきさらぎ厳しいために衣をさらに重ね衣更着。旧暦2月は今で言う桜の咲く季節でもありきさらぎ気更来、草木の芽が張り出すと言う意味からきくさばりづき木草張月など様々な説がある。分院の敷地の草木も常緑樹以外は葉を落とし、冬枯れの景色になり、季語でいう冬木という状態である。しかし、よく見ると、新しい葉の芽や花芽が少しずつふくらみ始めている。この様子を冬萌えと呼ぶ。春になると草木は突然芽を吹き、花を咲かせる様に見えるがそうではない。そのうちでも、いち早く花を咲かせるのがウメで、春告草と呼び、ウグイスを春告鳥と呼ぶ。ウメは好文木といわれ学問の象徴となり、香もよいためかばえぐさ香栄草といわれる。ウメは中国原産で古代に日本に渡ってきた。容易に交雑し、300種以上の品種がある。江戸時代までは花見と言えばウメをさすことが多く、和歌に単に花といえは平安時代まではウメをさすことが多かった。ウメには雪も似合うが、ウグイスとはコンビで和歌によく詠まれている。ところが、ウメによく来る鳥はメジロである。淡緑黄白色を、ウグイス色と言うがどちらかと言うとウグイスは、茶色に近くウグイス色はメジロの色に近い。最近は東京にもメジロが増えた様に思う。ウグイスやヒヨドリは暖かい地方では留鳥で春先には花の蜜を吸うためにツバキの花に良く集まる。乱暴者のヒヨドリと共に最近、とみに良く見かける様に思うが私のみの

感じであろうか。ナガサキアゲハやクマゼミの北上も言われており、温暖化と関係がなければよいのだが、少し気になるところである。

梅の木になお宿り木や梅の花

芭蕉

鶯の笠落したる椿かな

桃青



<ふくらみ始めた分院の庭のウメの花芽>

少々お待ち下さい

元精神科部長 栗原 雅直

孫たちを連れて近所のイタメシ屋に行った。豊富なメニューで何を取るか決めかねる楽しい店のはずだった。「パスタは何にする？別なものを取ってシェアすれば、いろいろ味を試せるよ。いやそれでは食べた気がしない、めいめい別なお皿を取りたい」などとメニュー選びにも時間がかかった。

さてお料理が順々に運ばれてきたが、私の分だけ一つ遅れ、なかなか運ばれてこない。家族はもう半分終わっているのに、である。

そこでウェイターに恐る恐る催促した。「少々お待ち下さい」という答えが返ってきた。手順もあるのだろうと思い、しばし我慢して待ち続けることにした。

だが、さらにしばらく待ったけれど、お皿が運ばれてくる様子はない。子供たちの食事、あらかた終わってしまった。みんなで一緒に食事するのが楽しみだったのにと、早くして欲しいとウェイターに再び声をかけた。一人だけ遅れたら楽しくないこちらの気持ちを述べた。答えはまた「少々お待ち下さい」だったのである。

こちらが思ったのは、そもそもレストランのサービスは料理を作る裏方と、料理をお客さんにサービスする表方、つまりウェイターとのチームワークで成立する。単品のお料理がいくら美味くても、サービスの順序が狂ってお客さんを待たせて、雰囲気壊されてしまったら、お店の採点は下になってしまう。ウェイターはお客様の胃袋の具合から、全員の食事の進行具合までを含めて、食事という祭典のモジュレーターになるべきだ。そう感じたのである。お料理全体の流れから、お客様の胃袋の具合まで、また食事の雰囲気がどう盛り上がっているかについて、ウェイターは気を配らねばならない。つまり調理場との間に立って、スピードの調整をしたり、遅れるならばリップサービスでもしてお客の気を逸らさないように務めるのである。その目配りがお店のサービスでしょう。一人だけ大幅にお皿が遅れているというクレームが、いったい調理場にきちんと伝わっているのだろうか。

そもそも、ファミレスなどでお運びをする最近の若者は、マニュアル通りの答えをする

だけ。お客の本当の気持ちを汲み取ることなど考えてみようともしない。苦情を言いたい気持ちよりも、今どきの若者を教育せねばならぬ、といった使命感が急に燃え上がってきたのである。もっともお客がいくらきつく苦情を言ってみても、この老いぼれと思われるだけで無効なことはよく知っているつもりだが。

いつまで経っても皿が出てこず「少々お待ち下さい」の連呼であることに、ますます腹が立ってきた。ウェイターの胸倉をつかまなければかりに、まだかまだかと詰め寄った。貴方止めなさいと女房の制止。殴られでもしたら大変でしょう。若者教育という正義感・義務感がせき止められたことに憤懣している私の前に、お店のオーナーが出てきた。「別なお客さんのお料理でオープンを使っている。順番にお出ししているのです」との返事。それならいつになるのか、何分待つのか、情報が欲しいのである。JRなどの踏切事故で待たされるときも同じで、いつも少々お待ちくださいの繰り返し。伝達情報はゼロなのである。こちらは、あと何分たったらオープンが空き、何分後にはテーブルにお料理を出せそうだななどということを知りたいのである。

当方の食事の進み具合を初めから考えて、オープンを使う順序の調整など、いくらでも出来ただろう。オープンでは一度に一皿しかお料理が暖められないのだろうか。初めからその辺を教えてくれて、どうしても一品だけ遅れるのだったら、こちらの注文を変えたかも知れない。それが説明と同意（informed consent）ではありませんか。双方、同じ台詞の繰り返し、しかもだんだん声が大きくなることに気付いた孫娘は、クスクス笑っていた。

結局相当時間待たされて、なんとか食事をすませて帰ってきた。傷つけられた私は、もうあのイタメシ屋には絶対に行くまいぞ、と決心したのであった。

虎の門病院からのご案内

初診時より効果的な診察ができますよう、可能でしたら他病院からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちにならない場合は初診時選定療養費(本院5,250円、分院3,150円)をお支払いいただきます。

本院診療受付時間(初診)	
内科	8:30 - 10:30
小児科	8:30 - 11:00
皮膚科	8:30 - 10:30
麻酔科	13:00 - 14:30(水以外)
外科	8:30 - 11:00
脳外科	月曜～金曜 8:30 - 11:00 月曜 13:00 - 14:30
整形外科	8:30 - 10:30
形成外科	月・火・木・金 8:30 - 10:30
産婦人科	8:30 - 11:00
泌尿器科	8:30 - 10:30
耳鼻咽喉科	8:30 - 10:30
眼科	8:30 - 10:30
歯科	8:30 - 10:30

分院診療受付時間(初診)		
	AM 8:30-10:30	PM 1:00-3:30
内科総合診療科	月・火(第3×) 水・木・金	火(第3)・水
一般内科	月・火・水・金	火・水・木・金
呼吸器科	×	金(第1・2・3・4)
肝臓科	週による	週による
消化器科	×	水
神経内科	×	月・金
腎センター(内科)	月・火・水・木	月(第1×)・火
腎センター(外科)	火・金	×
精神科	×	月・火・水・木
循環器センター	×	水(第1・2・3)
外科	火・水・木	火・金
整形外科		×
皮膚科	×	火(第2・4)
小児科	×	月・水・金
泌尿器科	×	月
歯科		

虎の門病院 本院

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111 (代)

地下鉄銀座線虎ノ門駅3番出口 徒歩5分
車でご来院の方：有料駐車場があります
(30分：300円 患者さん割引あり)

虎の門病院 分院

〒213-8587 川崎市高津区梶ヶ谷1-3-1
TEL 044-877-5111 (代)

田園都市線梶ヶ谷駅より徒歩15分
宮崎台駅よりバス5分

さいたま診療所

〒330-0081 さいたま市中央区新都心2番1
さいたま新都心合同庁舎2号館1階

TEL 048-601-1347

JRさいたま新都心駅 徒歩5分

JR埼京線 北与野駅 徒歩8分

(診療科) 内科・精神科・歯科

平日AM 9:00～11:30 PM 1:30～4:00

予告なく変更することがありますので、診療前に電話等で各料の診療の有無を確認の上、ご来院ください。

人間ドック・脳ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院 健康管理センター

直通) 03-3560-7777

平日8:30 から 16:00まで

当院でセカンドオピニオンの提供を受けたい方へ

他の病院におかかりの患者さんで、ご自分の病状や治療方針について現在おかかりの医師以外の意見をお求めの方へ対し、当院各科専門医(部長・医長クラス)による特別相談をお受けしております。(予約制)

(料金) 60分：31,500円

延長される際には、30分毎：21,000円

医療連携部 (直通) 03-3560-7823